

彩々亭（行田市）

2014年8月 訪問
埼玉モダンたてもの学生レポーター
埼玉大学教養学部 島澤 陽平



足袋の製造で財を成し、参議院議員も務めた行田市出身の荒井八郎の邸宅で、「足袋御殿」ともいわれていました。八郎が亡くなった後は、住居として利用されていましたが、およそ20年前に改装を行って、現在は和牛懐石のお店として利用されています。



建物は、正面に向かって左から、

- ① 3階建ての洋館
- ② 平屋建ての大広間
- ③ 2階建ての住居兼事務所

となっています。

特に洋館は、遠くからのお客様をおもてなしするために利用されていました。

それぞれの建物に、それぞれの趣があります！

① 洋館



始めに、洋館におじゃましました。洋館の1階のひと部屋で、不思議なものを見つけました。扉の形をしているのですが…そこに扉はありません。建物がつくられた当時は、隣の部屋との扉があったのでしょうか。

2階は、なんと和室になっています。今では貴重な木材がたくさん使用されています。



欄間に、松葉や鳳凰が！
匠の技が光ります。





3階からは、付近の緑あふれる景色を一望することができます。

洋館の屋根を見ると、緑色の瓦が使われています。
この瓦は、建てられた当時の瓦だそうです。
緑色の濃淡が、なんとも味わい深いです。



②平屋建て大広間



大広間はゆったりとしたつくりになっていて、窓からは、池のある庭園を望むことができます。
当時、荒井八郎のもとを訪ねた政財界人が、会合などをする際に使われていたそうです。

この部屋には、黒柿など貴重な木材をふんだんに使用したことがわかります。

中は4つの部屋に分かれていて、それぞれの部屋に区切ることはできませんが、ふすまを取り外すことで、1つの大きな部屋にできる工夫がされています。



広間につながる廊下は、広間を囲むようにつくられています。

窓の上にある梁は、1本の丸木でできています。とても長くて見事です。

梁にするためには、木がまっすぐでなければならぬため、このような梁を作れるものは、なかなか伐採することができないそうです。

この庭に使われている石は、富士山の溶岩を使っているとのこと。ごつごつしているので、風景になじみます。

③住居兼事務所



荒井八郎が使用していたとされる
2階の部屋。

窓からは緑の風景を楽しむことができる、とても落ち着いたつくりとなっています。

また、当時としては珍しく、バルコニーが作られており、気品を感じます。

建物の中で見つけた、さりげないひと工夫！



2階の和室で発見！
仕切りに、絵を組み入れています。
この絵は、「浜千鳥」の絵だそうです。
遠方からの来客へのさりげないおもてなしかもしれません。

和室の障子をよく見てみると…
木の端が削られて、面取りされていることがわかります。
とても加工が大変そうですが、より良いものにするために、職人が手間を惜しまなかったことが伝わってきます。



階段の窓で発見！
ねじの向きをよく見てみると…全てのねじの向きが、ちょうど数字の「1」の向きのようにそろっていませんか？
これは偶然ではなくて、職人さんがより美しいものに見せるために、あえてこのようにしたのでしょいか。